

幸せな社会づくりをめざして

病気にかかわる人の人権 (HIV/エイズについて)

私たちには誰にでも、自由に人間らしく幸せに生きる権利「人権」があります。しかし、誤った知識や偏見などからその人権が侵害されてしまうことがあります。

HIV感染者の方々など、病気にかかわる人の人権もその一つです。

HIVとは、エイズ(後天性免疫不全症候群)を引き起こすウイルスのことです。このHIVによって身体の免疫力が破壊され、本来なら自分の力でおさえることのできる病気「日和見感染症」を発症するのがエイズです。

HIVは人から人にうつる感染症ですが、日常生活の接触で感染することはほとんどありません。また、感染しても、すぐにエイズを発症するわけではありません。

しかし、当初は治療法がなく、報道では、この病気の恐ろしさのみが強調されて伝えられました。そうして人々の間に生じた誤解や偏見から、HIV感染を理由に就職が取り消されたり、医療機関で差別的な対応や診療拒否がされたりするなどといった人権侵害が起りました。

【よくある誤解】

- ×握手や会話で感染する。
- ×風呂やプールと一緒に入ると感染する。
- ×せきやくしゃみで感染する。
- ×便座や食器、タオルなど日用品の共用で感染する。

×血を吸った蚊やダニなどに刺されることで感染する。

【正しい知識】

○HIVの感染経路は性的接触、血液感染、母子感染の3つに限られる。

○治療薬の開発により、HIVに感染しても、早期発見と早期治療によって、エイズの発症をおさえることができる。

○近年は性的接触での感染が増えており、特定のパートナーであっても感染の危険性がないとは限らない。HIVは誰にとっても身近な問題である。

現在では、HIVは治療可能な病気となり、適切な治療を継続することで、社会生活を続けていくことができます。しかし、それが広く知られておらず、いまだに偏見や差別が解消されていない状況にあるのです。

アメリカでは、エイズが社会的な問題となってきた1990年(平成2年)頃から、エイズで亡くなった人への追悼の気持ちとエイズに苦しむ人々への理解と支援の意思を示すため、「レッドリボン」運動が始まりました。その運動は、今、国境を越えた世界的な運動として発展しています。レッドリボンは、エイズに対して偏見をもっていない、エイズとともに生きる人々を差別しないというメッセージです。わたしたちの周りにも、レッドリボンの輪を広げていきましょう。

■人権政策課

(☎) 23-5415
(☎) 37-3184



美術館通信

平成29年度 米子市美術館 特別企画展 II 米子美術家協会 - 70年のあゆみ -

◆会 期 1月21日(日)～2月18日(日) (水曜日休館)

1947年、鳥取県西部の美術教員を中心に発足した米子美術家協会(米子美協)の設立当初の会員から旧・現会員までの95人による洋画・日本画・版画作品120点を紹介します。70年にわたる同会のあゆみを振り返る貴重な機会ですので、ぜひこの機会にご鑑賞ください。

出品作家

【旧会員】 安達孝三、新井武、生田眞、石川惣吉、石田整昭、石塚征子、石飛幹夫、石野眞、泉幹夫、稻倉廣、稲田頼吾、井上迪彦、入江淑元、岩崎浩二、梅実明、梅原宏治、梅原幸枝、遠藤恵裕、大江昇、大場義彦、奥田盛雄、小倉伸夫、尾沢昇、梶谷寿雄、柏木参治、金畑実、河田久寿、河本清、國頭繁次郎、幸形栄治、小谷悦夫、坂口寛夫、笹鹿憲一、嶋田俊夫、清水邦雄、清水芳武、庄司俊英、杉本隆喜、杉本みつる、鷺見彦一、角護、妹尾輝雄、世山邦彦、田中重利、田中良一、田村憲二、長尾寛、中村芳雄、柳楽吉郎、沼信、長谷川富三郎、濱田珠鳳、濱田良徳、原田義道、干村恵美子、福島愛山、福永晶爾、前田修、前田進、松原孝明、松原靖子、水田淑恵、光木桂二、最上稔、本池敬郎、安田光昭、安田富穂、八橋誠滋、山本朔士、渡瀬春明

【現会員】 赤本和夫、石田しのぶ、今出茂徳、植田邦子、梅須洋子、遠藤師夫、大田澄江、加藤哲英、吉川祐子、倉鋪悠、小西怜子、佐々木勇、佐島征、佐藤千秋、新宮雄子、竹安堯文、谷川章、築谷士郎、永井俊郎、中野勝喜、浜野洋一、福島田鶴子、松井薫、八尾洋一、米原真志子(五十音順、敬称略)

※ 観覧料などくわしくは、24ページ「2月の催し」をご確認ください。

問合せ 米子市美術館 ☎ 34-2424、FAX 33-0679



石田整昭《動く》1962年 個人蔵



嶋田俊夫《瑠璃光寺五重塔(山口)》1986年 個人蔵